

令和5年 祝

# 20歳のつどい

1月8日、令和5年「20歳のつどい」が行われました。  
今年、愛荘町では250人が20歳の節目を迎え、当日は183人が20歳のつどいに参加しました。

愛荘町では、今年度も引き続き、感染症対策を徹底した上で「20歳のつどい」を行いました。振袖、袴やスーツなど華やかに着飾った皆さんは、久々に再会した友人との再会に喜び、あの頃に帰ったかのように会話が弾んでいました。また、ここまで育ててくれたご両親などと笑顔で記念撮影したり、感謝の気持ちを伝える姿もありました。式典第1部が始まると来賓からの祝辞に続き、20歳のつどい実行委員の西川 颯志朗さんと栗田 拓さんが20歳の抱負を述べ、国歌斉唱では、北澤 明莉さんの演奏のもと、歌を声に出さず、心の中で斉唱しました。式典第2部では、コロナ禍で式典に参列することができなかった恩師からのビデオレターが流れ、参加された皆さんは恩師が語るエピソードに目を細めて懐かしんでいました。また、会場の外からは、皆さんの成長した姿をあたかく見守る保護者の姿がありました。式典終了後、皆さんからは、「懐かしい顔がたくさんで、心がいっぱいになりました」「中学生ぶりに会う子もたくさんいて、20歳という節目を同級生の皆と迎えることができ、嬉しかったです」などの声が聞かれました。夢や希望を胸に、前を向く皆さんの姿は、愛荘町の未来を明るく照らしていました。



### ◆ 20歳の抱負 西川 颯志朗さん

私は、消防士として働いて2年目になります。消防車で現場に行くことより救急車で現場に行くことの方が圧倒的に多いのが現状です。生きたくても病氣や何らかの体の事情で生きることができない人がいます。私が伝えたいのは自らの命を大切に、人生を楽しんでほしいということです。生きていれば嬉しいことや楽しいことが必ずあるので、生きづらいと感じたらここにいる仲間と相談したり、家族や恩師を頼って、ともに乗り越えていきましょう。今日このように20歳のつどいという一つの節目を迎え集まっていますが、まだ20歳です。一人暮らしや結婚など歩んでいる人生の過程はそれぞれですが、私たちの人生は始まったばかりで、やっと大人のスタートラインに立たたと思っています。これからはひとりの大人として自覚と責任を持って、社会に貢献できるよう努めていきたいと思っています。



### ◆ 20歳の抱負 栗田 拓さん

今この場に立っているのもいつも傍で支えてくれた両親の存在があったからです。これからは少しずつでも親孝行していきたいと思っています。これまでの人生を振り返り私が感じることは、多くの人のご縁や繋がりの中で豊富な知識を身につけたということです。身につけたものをこれからの人生に活かし誰かの支えになれる大人になりたいです。昨年はワールドカップがありました。あの強豪国のドイツとスペインに勝利したことで結果以上の感動を与えてくれました。日本を背負って戦った姿に感銘を受け私も飛躍します。まだまだ未熟ですが支えてくださった多くの方々に感謝の気持ちを忘れず、社会に貢献出来るよう努力していきます。最後になりましたが皆様の日々が笑顔であふれますように。